

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

無関心の分厚いマントを着ていませんか?

「白バラ」写真展・講演会

細谷瑞枝

7月20日まで
キアラ館にて

学生がナチスに抵抗するピラを配り死刑に

ご覧になった方も多いと思いますが、6月21日から7月20日までキアラ館で「白バラ」写真展が開催されています。6月24日には早稲田大学の村上公子教授を講師にお迎えして「白バラの学生たち―兵士ではなく市民の勇気を」というタイトルで講演していただきました。

す。

村上先生のお話ぶりは落ち着いた冷静なものでしたが、自分たちと同じ年代の大学生が抵抗運動に身を投じたという事実は学生達に強い印象を残したようです。学生達の感想をご紹介します。

同年齢の人たちが!

◆白バラのことを私は知りませんでした。講演を聞いて愕然としました。なぜならこの白バラの人々は私と同じくらいの年齢の人々だったからです。二十歳前後の人々が命を顧みず、ナチス政権と戦ったこの事実を知って、鳥肌が立つほどでした。



市民としてのほこり

◆「白バラ」についての村上先生のお話を聞いて驚いたことは、ナチズムは青年の運動であり、青年に支持されていたこと、もうひとつは「白バラ」の人たちが純粋なドイツ人であり、比較的裕福であったことです。(中略)なぜ純粋なドイツ人であり、裕福であった人々が自分の命を犠牲にしてまでナチズムに抵抗したのか。それは、自分たちさえよければそれでいいというのではなく、間違っていると感じたら社会に対して反発する、市民としての誇りが強かったからなのかなと思いました。

ボランティア学生の協力

また、この写真展や講演会の実施にあたり、ピラやポスターの制作、特設ホームページ (<http://mz.minx.jp/shinobara/>) の開設、さらには展示写真の解説・説明などにボランティアで協力してくれた学生がいます。彼女たちの活躍は6月25日の朝日新聞の紙面とHP (http://mytown.asahi.com/haraki/news.php?k_id=08000000606240006) で大きく取り上げられ、特にサイトのヒット数は、当日の朝日新聞のサイトの中で全国第3位でした。「(五面参照)」それだけに反響も地球規模で、遠くニュージーランドからも次のような励ましのメールが届きました。

ニュージーランドからもメールが

◆最近の日本人は、どうしたんだろーと思わずような事件が多くて日本の将来を心配していました。皆さんの事を知り、暗闇で小さく強く輝く灯りを見つけたと思います。やがてそれが大きな明かりに変わる事を祈っています。

日本の戦争体験と白バラ

講演会には多くの年輩の方に来ていただきましたし、掲示板への書き込みもいただいています。60年以上昔のドイツの地に散った「白バラ」のメンバーたちの生き方を紹介する私たちの試みが、時空を共にしながらもなかなか継承されない日本の戦争体験者のみなさんの記憶と思いをも継いでいくことになりました。再び学生の感想です。

◆間違っていることはきちんと間違っていると言う、自分の考えを自分なりの形できちんと言いたい。そのことが市民としての勇気であり、現在『自由』を手に入れている私たちにどうも重要なことであると感じました。

わたしは「白バラ」を思い出す

現在、日本は平和です。しかし、もし争いが起こったとき、このようなことが起こったとき、「白バラ」のように勇敢に立ち振る舞えるでし

うか。捕まって殺されるなんて絶対に嫌です。しかし、それでもいなければならぬこと、人々に伝えなければならぬことがあったとき、わたしは「白バラ」を思い出す

でしょう。

「心にまとう無関心のマントを破りすてよ。手遅れにならないうちに決断せよ」
「白バラ」第五のピラから

日韓国際シンポジウム

外来文化の受容と展開

染谷智幸

11月18日(土) 19日(日)、本学において日韓国際シンポジウムが開かれます。参加大学は、明知大学校・関東大学校(以上韓国)、桜美林大学校(以上韓国)、茨城キリスト教大学(以上日本)の4大学です。

大会テーマは、「日本と韓国における外来文化の受容と展開」で、昨今何かと話題に

のぼる両国の難しい政治状況を考えるために、両国の持っている文化的背景を根本から考え直してみようという狙いです。

シンポジウムでは、次の先生方が研究発表と討論を行います。本学からは齋藤聖二先生と藤田悟先生が、発表されます。お二人のいつもとは違う真剣なお顔が見られるかも知れませんよ。

◆日本は近代国軍をどう作つたか 齋藤聖二 本学文学部

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていないそうです。これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

- ◆日帝の植民地裁判所の設置と判決が意味すること―韓国両国の葛藤解消のための一提言 辛虎雄 関東大学校人文学部
- ◆日本・中国・韓国における西洋中心主義の受容と克服―その共通点と差異点 鄭仁和 関東大学校人文学部
- ◆塩硝の伝来 加藤朗 桜美林大学 国際学部
- ◆西欧文化が韓国新世代男性のファッション行動に及ぼした影響 全良珍 明知大学校デザイン学部
- ◆聖書の朝鮮語訳と「ハナニム」の誕生 鄭百秀 桜美林大学 国際学部
- ◆東北アジアIT関連外来語の言語学的な特徴比較研究 姜允玉 明知大学校 人文学部
- ◆英語病の症状を比較検討する 藤田悟 本学文学部

稲田=毎日が新鮮で刺激的で 充実していた 大森=楽しいばかりじゃない!

稲田 麻里江

中等 教育実習 を終えて



大森 滋子

文化交流学科06年3月卒 (聴講生として実習)

6月5日から三週間、中学校で教育実習をさせていただきました。

始まる前、生徒とどんな話しようかな、仲良くなりすぎて別れがつかなくなったらいやだな、と期待でいっぱいでした。

しかし、始まってからはそんな期待など抱いている暇などありません。二日目からは朝7時に登校、帰りは8時半以降という日が三週間続きました。なぜなら生徒は部活動があるため、朝7時には学校に来ます。朝7時から私たちは登校指導をしなくてはな

りません。その後、朝の会、授業のない時間は生徒の日記をチェック。放課後は部活指導、プリントの確認、指導の打ち合わせなどやることは山のようにあるので、家に帰ってから指導案や授業の準備、履修簿の記入をします。よって、寝る時間は3、4時間程度。

生徒とのコミュニケーションは朝、昼、帰り、授業のみとなります。思い描いていたような楽しく、和気あいあいの時間は全くありませんでした。このままでは、仲良くなりすぎて涙で感動のお別れ

になりませんでした。実習中の環境も良く、ここで実習させていたでことができ幸せでした。ありがとうございます。今回の実習で感じた多くのことを励みに、生徒たちのいる学校に行けるよう頑張らなくてははいけないと決心できました。

ただ、ご紹介くださった先生方からもお話を頂く機会が持てたことは大変貴重な経験

……なんて事はないんだろうなど感じていました。

もう一つ大変だったのが、生徒指導です。私たちは生徒ではありません。実習生であつても生徒から見れば先生です。ですから、授業中や掃除、登下校時、生徒の安全を考えた自転車の顎ひもがゆるんでいたら注意しなければなりません。掃除してこない生徒には掃除するように促さなければなりません。これが難しい。初めて行った日に、一三、四歳の子に注意できませんか。信頼関係が築けてない私はなかなか注意や指示が出せませんでした。出しても、生徒は実習生だと思いい相手にしてくれません。

この信頼関係は生徒と話す時間がないのにいつきずくのか、私は考えました。それは、生徒との日記でした。生徒が一言「今日は暑かった」というのに対して私は長々と返事を書きました。そのかいあつてか、昼休み教室に行くといろんな生徒が日記について話してきてくれました。

生徒は人間です。人間とコミュニケーションし、授業をすることは楽しいことばかりではありません。でも、苦労した分、大学では学べない心の授業を生徒に教えてもらいました。この三週間は私にとって貴重な体験となりました。一年一組の生徒と先生方に心から感謝しています。ありがとうございました。

留学生の俳句を紹介します

染谷智幸

日本語I B (染谷担当) では毎年、留学生に日本語の豊かさ美しさを知ってもらうために、俳句を作っています。その中から優れた幾つかを紹介しましょう。「評」は染谷です。

・くじはまで突然のチュウサイダー味 金ユンソン

(評) 韓国女性はいつも恋愛に直球を投げますね。ここはサイダーを飲んでいたのでこのじゃなくて、サイダーのような爽やかさを感じれば良いですね。

・赤い飴冷たい器さくらんぼ 李貞榮

(評) パステル調の絵のような俳句です。さくらんぼの赤と透き通った器が印象的で素敵な句になりました。

・春の夜強い風雨にさらわれる 周虹

(評) 春に吹く突然の風に驚かされることがありますね。暖かくなって気持ちが緩んでいるだけに、まさに「さらわれる」ような気持ちになります。

・海岸で火花打ち上げ夏の夜 ケイシー・ホワイト

(評) ストレートな句ですが、それがかえって良いですね。ケイシー君のキラキラ輝く眼が浮かび上がってきます。

・梅雨つづく心の闇もまだつづく 曹永尚

(評) 鬱陶しい梅雨はホントにこんな気持ちになります。韓国から来るとさらにその感度は深まるでしょうね。

・寄せる波活気ができる夏の海 洪惠源

(評) 岩に砕け散る波を見ると力を与えられる、という句です。夏の海らしい爽快な句になりました。

・遠すぎてとどくことなき日を恨む 金昌宇

(評) 「恨む」が効いています。ちょっと哲学っぽい句になりました。青春感傷編という感じでしょか。

以下、日本の学生の句も紹介します。

・風鈴の音に誘われ夕涼み 小野さやか

・冷たさにふと目をやると夏の川 萩谷絵里

・初螢夕闇の中のおれしさよ 鈴木優香

・春風に思いをのせて第一歩 沢畑茉莉子

・夏祭り二人で分け合う氷菓子 木ノ内めぐみ

・炎天下ひまわり同士背くらべ 宮岡麻実

(評) 小野さんがこんな繊細な句を作るとは……。いつもの言動からは想像も出来ませんでした(笑)。沢畑さんの句は投票の結果、第一位になった句です。「第一歩」が春らしい良い句です。夜濯の君と密かに名づけ居り 染谷智幸

(評) 最後に拙句を一つ。「夜濯」とは「よすすぎ」と読んで夜の洗濯です。夏は乾きが早いので夜に下着などを洗濯します。若い頃、同じアパートの美しいお姉さんを密かに慕っていたんですね。

私にとって3週間という時間はあつという間でした。この実習が私に大きな影響をもたらしたことは大きな驚きであつたし、大学生活とはスピードが全く違い、毎日が新鮮で、刺激的で、とても充実していました。

初日、先生として初めて教壇の上に立ったとき、私に注がれた生徒の視線に圧倒さ

れ、これから始まるこの子どもたちの生活に期待と楽しみ、そして不安を抱きました。初めに悩んだのは生徒とのコミュニケーションでしたが、教頭先生が「生徒は良い先生か悪い先生かきちんと見分ける目を持っている。悪いことをダメだ、と堂々と

また、ご紹介くださった先生方からもお話を頂く機会が持てたことは大変貴重な経験



◆今を歴史する試み◆

あなたは自分が 近代の次の時代に生きていく とを自覚できるか。

齋藤 某

日本史が、古代・中世・近世・近代という時期区分から出来ていることは誰でも知っている。その「近代」がいつまで続くか考えたことはあるだろうか。実は「近代」はもう終わっているのである。古代が一九二〇年前後に、中世が一六〇〇年前後に、そして近世が一八六七年前後に終わったように、近代もすでに終わったのだ。それは、一九九八年前後のことである。

位」もおのずと付いてきた。近代資本主義の時代になると「カネ」がすべてになるが、「カネ」があると「地位」も「土地」も手に入るのである。近代の次の時代では、つまり、あるものを手に入れば、「地位」も「土地」も「カネ」も手に入ることなのだ。

このことから、近代国民国家を支えてきたものはほとんどIT情報世界に組み込まれ、変質していくことだろう。多くの人々がどんなに抵抗しても、古代は結局中世になり、中世は近世になり、近世は近代になった。いくらあがいてもすべては押し流されてしまっ

た。あなたは、そのどちら側でこの移行期を生きていくとするのか。それが時代の転換期に生まれてしまった人間すべてに突きつけられている課題である。さあ、お前はど

うするか、どちらの側で今を生きていくのか、と迫ってくる。パソコン・ケイタイの道具は、とどまることを知らない大々的な展開を今後も続けていくだろう。今ではまだ想像

もできないような怪物に形を変えていくはずだ。新時代を支える道具というものは、そういうことが運命付けられているのである。明治初期の鉄道・製鉄業・郵便事業などと同じだ。それらがはじめられたとき、こんなにも時代を変え、担うものになると想像することは困難であった。自動車が出現したときも、飛行機が空を飛んだときも、電気が

供給され、株式が売買され、映画が発明され、テレビ放送がはじまったときも、誰もこれほどに物凄い発展をするとは思いつかなかった。近代が終わった指標は、その国有鉄道や郵便事業が解体されて民営化されたことにも見て取れよう。近代を作り上げ、国を支えてきた基幹産業は、いまそこから脱皮せざるを得ないところに追い込まれている。すべてが新しい装いをまとわねばならなくなっている。今は、聖徳太子の時代(古代初期)、源頼朝の時代(中世初期)、徳川家康の時代(近世初期)、西郷隆盛の時代(近代初期)に匹敵する時代である。みんな、心してこの時代を注視しよう。

さて、そのような認識に立つて、一つだけ忠告をしておく。新しい時代への移行期で成功しようと思えたら、あなたは決して前時代のルールにのっとって生きていくこと

律令制、封建制、資本制と移り変わってきた各時代を特徴付ける柱は、今現在まさに転換しつつある。確かにまだ資本主義の臭いはする。周囲は近代で最も重視された「カネ、カネ」で動いているように思える。でも、それは、鎌倉初期や江戸初期や明治初期と同じ移行期としての特徴であって、前時代の残滓がまだ漂っているにすぎないのだ。

今の「時代のパワー」の在る場所は、確実に「近代」という場所から移行した。誤解してならないことは、時代が転換して前時代の軸から新たな軸に移るといつても、前時代が求めていたものが消えてなくなるわけではない。古代は「地位」が最重要事項であったが、中世は「土地」が命になる。中世では、「土地」を大量に持てる人間に

ある。まだそれは有象無象的、玉石混交見分けのつかない状態だが、まもなく近代的発想で社会に向かうと何も見えない事態がやってくる。それは良い悪いの問題ではない。古代は中世に移り、近世が近代に変わっていったように、時代というものは前の時代の中で密かに育まれた何物かによってどうしたって食い破られざるを得ないのだ。それは避けようのないことである。

「情報」の持つ意味の重さが増したのである。「情報」が、あなたのありとあらゆるパワーの源泉になる時代に入ったのだ。

こういことが見えてくると、商人ならそこら中にぼろ儲けの種が転がっていることに気づくはずだ。情報ベンチャー企業的大量発生は、そのような新時代に近代が移ってきたことのひとつの指標である。まだそれは有象無象的、玉石混交見分けのつかない状態だが、まもなく近代的発想で社会に向かうと何も見えない事態がやってくる。それは良い悪いの問題ではない。古代は中世に移り、近世が近代に変わっていったように、時代というものは前の時代の中で密かに育まれた何物かによってどうしたって食い破られざるを得ないのだ。それは避けようのないことである。

さて、そのような認識に立つて、一つだけ忠告をしておく。新しい時代への移行期で成功しようと思えたら、あなたは決して前時代のルールにのっとって生きていくこととするべきではない(年寄りの言うことを聞いてはいけません)。自分より年上の人間の言うことにどうしたら領かな

いでいけるか、そのことを発想の基盤に置きなさい。この文章も、あなたより年寄りが書いています。これに全面的に頷かないで、とにかく自分の目で時代を見なさい。今、時代が転換中だというのは本当か、それはどう転換しようとしているのか、それが見えるようになるまで、目を感性を磨きなさい。新時代には途方もない可能性が広がっているはず。そのどこをどう捕まえるのか。■

「カンボジア」という国と、 日本語教育ボランティアを通して 私を感じ考えたこと

田中悠介(文化交流学科3年次生)

まず、私には日本の外に出るという経験がなかったため、今回のこのプロジェクトに参加することとそれに至るまでの行程全ては驚きの連続でした。その中でも特に印象的だったものを幾つか挙げてみようと思います。

10歳くらいの女の子が流暢な日本語で

私が参加したこの「日本語教育ボランティア」はカンボジアの首都であるプノンペン集合プノンペン解散というもので、行きの行程と帰りの行程は自分たちがそれぞれに計画するものであったため、私達のグループはタイからカンボジアに入国しボランティアを終えた後はベトナムから日本に帰国する、という計画で参加することにしました。

達の子が私に向かっ「ワンダラー！」と叫びました。これは間違いなく「僕の写真を撮るなら1ドルちようだい！」という意味だとすぐに理解できたので、私はカメラを向けるのをやめてしまいました。カンボジアは貧しい国と聞いていましたが、実際に来て町

8月26日に成田を立ち、バンコクでは友達の家を3日間ホームステイしていたので私は地元の人々の暮らしを見ることが出来ました。

生まれから20年以上日本という国で温々と育ってきた私にとって衝撃的なものでした。私の日常からあまりにもかけ離れた風景だったので写真を撮りながら歩いていると、6歳か7歳くらいの男



生まれから20年以上日本という国で温々と育ってきた私にとって衝撃的なものでした。私の日常からあまりにもかけ離れた風景だったので写真を撮りながら歩いていると、6歳か7歳くらいの男の子が私に向かっ「ワンダラー！」と叫びました。これは間違いなく「僕の写真を撮るなら1ドルちようだい！」という意味だとすぐに理解できたので、私はカメラを向けるのをやめてしまいました。カンボジアは貧しい国と聞いていましたが、実際に来て町

「これでいい?」と言って渡すと、意外なことにとっても満足してくれた様子で「ありがとう!」と言って大事そうに彼女の宝物入れ(といってもビニール袋ですが)にしまってくれました。この時の停車はトイレ休憩のためだったの、時間にして10分もなかったのですが彼女の声や笑顔は今でもはつきりと思い出すことが出来ます。

それにしても彼女がこんな夜遅くに商売していることから察するに(夜10時半ごろ)、とても学校に行けるような生活環境ではないだろうと思ったのですが、例えば学校に通えていてもあれほどまでに上手に日本語が喋れるようになるのは難しいように思われました。おそらく彼女は観光客が話している日本語や、あるいは観光客に直接教えてもらったこともあったのだろうと考えられますが、物売りをする過程で日本語を学び取りまた練習したのだらうと思います。そして何よりも日本語が話せることが生活の向上に直結しているため彼女の「学ぶことに対する気持ち」は私などには想像出来ないほど強いものなのでしょう。

このポイペトと、名前はわからないのですが小さな村でのエピソードは、旅中私にとつて一番大きく印象に残っていると同時に、皆さんにもカンボジアという国を想像して頂くための材料になるのではないだろうかと思ひ冒頭に挙げさせて頂きました。

アンコールワット シエムリアップでの三日間 クメール伝統織物研究所

アンコールワットを中心とするクメール王朝時代の遺跡群を巡り、それからクメール伝統織物研究所という所へ行きました。「伝統織物」というのはシルクのこと、過去の内戦によって途絶えてしまった伝統的な織りの技術を復活させようというプロジェクトです。その工房では多くのカンボジアの人々が働いています。このプロジェクトの企画・立案者は日本人の森本さんという方で、このプロジェクトは95年に始まり10年かかってやっと今のよう段階にきていると言っていました。森本さんはこの工房から車で一時間弱離れた所に小さな村を作りました。この村ではシルクを染める原料になる植物や、蚕を育てる桑の木の栽培などが行われています。そこで暮らす人達は農場を広げるために毎日汗を流しています。私達も見学の途中で新しい畑を作るための根起こしを手伝わせて頂きました。手伝いと言えほどの仕事が出来たかどうかは疑わしいですが。



場で買ってきたバッテリーを使っていたので、翌日の授業についての話し合いと準備が終わるとすぐに寝るという生活でした。寝床は教室の中に蚊帳を張って確保しました。2日目はいよいよ生徒達が学校に来ました。オリエンテーションとして私達と日本の歌(カエルのうた)を歌い、それと同時にクラス分けのための名札作りを行いました。生徒達は12〜13歳で7年生と8年生の二つの学年に分かれていました。といってもほとんどが7年生で、50程度のクラスが3つ(計150弱)と8年生のクラスが1つ(20人程度)と計4つのクラスに分けることが出来ました。

翌日、私達の学校での生活に必要なものを近くの市場で買い、プレイヴェーン州にあるカンボジア日本友好学園を目指しました。途中バスが故障するアクシデントに見舞われましたが、どうか予定通りに到着することが出来ました。いざ到着してみると、想像していたものよりもずっと立派な校舎が建っていました。電気も水道も無いのですが、少し生活に不安を感じずにはいられません。私達はそこで12日間生活したので、1日の食事のうち2回は学校敷地内に住んでいる管理人さんの奥さんにつけて頂き(もちろんお金を払ってですが)昼食だけは私達ボランティアの面々が交代で作りました。調理する際の水は井戸の水を煮沸し、その他入浴など飲み水以外の水は全て井戸水を用いました。電気は市

味がなさそうな子もごく少数いますが、寝ている子は一人としていませんでした。授業は午前8時に始まり、50分を3時間というものでした。11時には授業が終わり子ども達はそれぞれに帰って行きました。

授業を通してはもちろん、授業が終わった後でさえもカンボジアの子ども達を見て様々なことについて私は気づき、そして考えました。彼らの年齢だった頃の私には彼ら以上に選択肢が幾つもありました。選択肢というのは生活の中の選択肢のこと、食べる物や着る物、学校から帰ってすることなど、全てにおいて私は彼ら以上に選択肢することが出来ました。しかし、何かを「学びたい」という気持ちは彼らの足下にも及ばないものだったでしょう。彼らのほとんどは家に帰ると家の手伝いをしなければなりません。牛の世話やたんぼの仕事など様々な家の仕事を手伝っています。そのため学校にいる時の彼らはとても生き生きしている様に見えたのかもしれない。

この日初めて私達は教室で生徒達と対面したのですが、いざ生徒達の前してみると私の頭の中は真っ白になってしまいました。私は日本語を教えに来たはずでしたが、私が日本から準備してきたものも子ども達に教えようとする気持ちは、なんて中途半端なものだったのだらうと自分自身に呆れ返ってしまいました。何はともあれまず挨拶だと思つたので、恐る恐る「こんにちは」と私が言うと、子ども達は私の声よりも何倍も大きく元気な声で「こんにちは!」と答えてくれました。この声を聞いた時、何をどう教えようかというところに思惑を巡らせていた私の気持ちは大きく変化し、「教えたい」という単純ですがとても強いものになりました。

とにかくカンボジアの子ども達は授業に積極的です。もちろん恥ずかしくて手を上げない子や、授業にあまり興味

何かを「教えた」という経験がありません。そのため、午後からバイクタクシーの運転手や、プノンペンまで出て塾の先生をしなければなりません。先生達の給料をより多く支払うことが出来れば、彼らを「教える」ということに集中させることが出来る、とコンボーンさんは言っていました。

午前中で授業が終わると、彼らは家に帰りますが、午後2時頃になると学校の近くに遊んでいる生徒はまた学校に遊びにきてくれました。そのような時にも彼らは私達に授業でわからなかった所などを質問しました。

カンボジアには学校に通うことが困難な子どもがたくさんいます。学校という組織もまだまだ不完全で(特に田舎。日本が完全という様には考えていませんが)様々な問題があります。例えば、学校の先生は学校から支給される給料だけでは生活していくこと



何かが崩れ去り 新しい何かに気づき 何かが築かれた

津波被災地でボランティア活動1年

帰国報告＝福田 佳代子



はじめてのバンコク

私がタイに到着したのは2005年の5月30日の夜。空港の外に出て、初めてあのタイの熱気に触れた時「あー日本じゃない国に私は今いるんだな」と実感した。初めて見るバンコクは車や大きなビルや看板がそこらじゅうにあつて、思っていたよりもかなり都会だったけれど、高速道路のオレンジの電灯がなんとなく街を寂しく見せていた印象がある。

ニュージージーランドでよりコミュニケーションが楽だった

バンコクではその後10日くらい過ごしたと思う。DPF(ドゥアン・プラティープ財団)の幼稚園で子供と遊んだり人形劇の人形を作ったりした。タイ語を一つも勉強して来なかったことは悔やんだが、それでも一生懸命私と話そうとしてくれる人達ばかりでそれは本当に嬉しかった。1年を通して感じたことだけれどタイ人は基本的にそういう感じだった。本を使いながらの会話でも一緒に笑うことができた。私の英語のレベルはタイ語に比べれば相当上な

はずなのに、ニュージージーランドに行った時はタイでよりもコミュニケーションに苦労した気がする。

そんなある日の午後、突然DPFから「今日パンガーに行つたほうがいい」と言われた。いくらその日パンガーに行く人達がいるからといって、前日まであと1ヶ月後と言われていたのに、急にあと3時間後に変わってしまった。正直とまどった。「もつと早く言つてよー!」と思いが病み上がり(数日前の食あたりで)の体を引きずつてワゴン車に乗りこんだ。疲れ果てていたけれど私の三味線が子供達の興味を引き、車内は私の三味線演奏や子供達のタイの歌の合唱で盛り上がり、さつきまでの苛立ちはずつかり収まってしまった。子供の力はすごい。

意外と明るく津波の話を

約10時間後、パンガーに着き海の近くの村で見たものは、倒れたヤシの木や倒壊した建物や村に乗り上げた漁船だった。私のショックとは裏腹に、子供達と先生はその船の前で写真を取ろうとわいわいカメラにピースサインを送っていた。そのとき私はそれをどのように捉えたらいいのかわからなかった。津波の話をしたり写真を撮ったりするのは不謹慎だろうと感じたからだ。しかしその後、わりと明るく津波の話をしてたり平気で津波の絵を書いたりしている被災者の方と触れ合っているうちに、この人達は津波を忘れたいのではなくて、むしろ

知って欲しいし覚えていて欲しいのだと気がついた。そしてそれと同時にどんなに辛いことでも後で我慢や笑い話のように変えてしまえる人間の力をすばらしいと思った。

パンガーでは7月末までDPFのテントで子供と遊んだりサオリプロジェクトを手伝ったりしていたが、この期間は私がしたことよりも、してもらったことや学ばせてもらったことの方が多かったと思う。その後サオリプロジェクトのアンからツナミクラフトセンターで働いて欲しいという話を断れなかった。それは、この時私の中で何かもつと出来ることはないか、もつと何かしたいという気持ちが高まっていたからだと思う。

ツナミクラフトセンター

そして8月、ツナミクラフトセンターで働き始めた。イギリスに一次帰国中のマネージャー、カレンの代理という事だったのでやることはたくさんあった。定休日もなく売上の計算や管理も全て手作業で夜遅い時間まで一人店で帳簿とよく格闘していた。しかしそれをまったく辛く感じなかったのは、タイ人の笑顔や優しさを毎日感じていたからだと思う。彼らがお土産に持ってきてくれたマンゴーは

世界で一番おいしいと思えた。

こんな感じであつたという間に1年が過ぎた。

帰国してからよく、就職にも有利になるんじゃない?とか、いい経験になったでしょう?などと言われるのだが、私はこれを単なるいい思い出の一つだとは思わないし、就職に役立つかどうかは気にしていない。それはこのことが、思い出とか仕事とか私から切り離すことの出来る部分ではなく、もつと私の精神的哲学的な部分に影響を与えているからだ。

社会の中に自分の存在理由や価値を見出し、また自分にとってその社会が本当に必要で大切なものだと思えたのは初めてだった。そこでは貧乏も金持ちもいい人もアル中も服役経験のある人も元警官も元軍人もバツイチもセラピストもミュージシャンもみんな一緒だった。ここに書ききれなくて残念だが、例えばそんなような生活の中などで、気付き築いてしまった新しい何かと、崩れて消えてしまった古くていらなかった何かが私の中にあるのだ。

私は本当にANNの活動に、そしてそれに関わつて下さった全ての方に感謝している。そしてまた私の次の番になる人を幸せだと思ふ。

〔06年6月29日〕

福田さんは文化交流学科05年3月卒、アジアンボランティア・サポート基金の補助を受けて05年6月から1年間、タイ南部の津波被災地でのボランティア活動にたずさわり5月末に帰国した。



「白バラ」

写真展が多くのマス・メディアに取り上げられました。

◆常陽新聞6月23日

見出し「ナチスに抵抗した若者たち 茨城キリスト教大で「白バラ」写真展 あす村上早大教授の講演」

◆産経新聞6月23日

見出し「ナチに抵抗した大學生の姿紹介・茨城キリスト教大」

◆読売新聞6月24日

「街・ふれあい」コーナーに

記事。見出し「ナチスに抵抗若者らの足跡」

◆朝日新聞6月25日

見出し「白バラの祈り語り継ぐ」ヒトラーに抵抗 独の青年6人の悲劇」茨城キリスト教大

◆茨城新聞6月28日

見出し「反ナチス運動の若者たち紹介 日立で「白バラ」写真展」

◆東京新聞7月2日

見出し「ナチス抵抗の若者たち紹介」茨城キリスト教大写真パネル展示」

短 信

■堀口 悟

染谷先生、斎藤先生、デビット・ヨシバ先生(現代英語学科)、それに堀口の4人は、8月初旬から18日まで(ヨシバ先生は11日まで)、韓国に調査旅行に行つて来ます。ソウルでの文献調査と韓国南西部の实地踏査を計画しています。实地踏査では、麗水・木浦・全州などを訪れる予定です。

■藤田 悟

今年も8月下旬からカンボジアに行きます。学生7名と「日本語教育ボランティア」ということでカンボジア日本友好学園に滞在します。

学園祭でのアジアンバザール用の仕入れを兼ねていますので、授業の準備も買い物準備もしなければなりません。緊急連絡用の国際携帯電話の契約をしたり、ホーチミン市の

買い物スポットを調べたり、デジタルビデオを物色したり……。

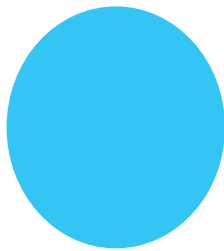
ぼくは友好学園を卒業して大学に入る学生に奨学金を出すグループの仕事もしているの、今回の滞在中にはこの秋から大学に入る若者にインタビュー調査をするすることになっています。

高校生の日本語・英語での作文を集めて新聞づくりも毎年やっているのですが、そのための添削指導を今年はやる余裕があるでしょうか?

去年の学園滞在の最後を飾ったのは夕間のさよならパーティでしたが、今年は間違って去年のようにキャンプファイヤーだけはやらないつもりです。トロピカル・キャンプファイヤーなんて、考えてみれば、ダメだつてすぐわかるはずなのに……。でも、おもしろかつたなあ。

将来を語ろう

新設科目「キャリアデザイン」(二年次生対象)では、さまざまな分野で活躍してこられた方々に仕事について、人生についてのお話をうかがい、学生が自分の将来をイメージする機会を提供している。05年度に提出されたレポート「将来を語ろう」の一部をご紹介します。



ホテルマンになる

Aさんの場合

私の数少ない夢の：一つに「ホテルで働く」というのがある。小さな頃から頻りに旅行をした経験からである。ホテルマンを目標に想定して何が必要とされるのだろうか。

ホテルで働く上でもっとも必要とされるのが外国語能力である。最近ではホテル以外の企業においても採用に当たり外国語能力にある程度の基準がもうけられるところが多くなっている。TOEIC六五〇点以上や、英検何級以上など明確に英会話能力が要求される場合が見受けられる。その外国語の中心はやはり英語で、ホテルマンとなるとそれ以外の外国語能力が必要とされてくる。特に中国語と韓国語の能力はホテルマンにとって早急に求められている能力と言える。

プロであり、接客の基本はコミュニケーション能力である。コミュニケーションには、マニュアル通りの通常業務に伴う会話だけでは効果はあがらない。本当に大事なことは日頃から色々な情報に耳を傾け、客からの様々な質問に対応するために豊富な知識情報を持つことである。客の名前を覚えるのはもちろん、天気・ニュース・スポーツ・芸能・地理・一般常識・経済などの知識、情報をいつでも引き出せる記憶力も必要となってくる。

ホテルマンになるために目指す資格は、TOEIC・ホテルビジネス実務検定試験・ビジネス能力検定・観光英語検定・秘書技能検定・情報処理活用能力検定・実用英語技能検定・マイクログソフトオフィス スペシャリストなどが、実に様々である。ホテルマンという職業は、毎日老若男女いろいろな人生経験をした人達(客)と出会い、話をする機会を多く得ることが出来る。その中から自分にとって吸収すべき点や見習うべき点を見つけ、それによって自分という存在を大きく育てていける仕事だとい



日本語教員

になって

韓国に行く



敬語の上達、気配り・心配り、コミュニケーションの上達などもある。そんな素晴らしい仕事に就けたらきっと毎日充実した日々を送れるのではないだろうか。資格は未だ何一つ持っていないので、今から少しずつホテルマンに近づく準備をしていかなければならない。

Bさんの場合

私の夢は日本語教員として韓国で働くことである。そのきっかけは、韓流ブームだった。大半の人々にとってはただのブームに過ぎなかったが、私にとっては違ったのである。

韓流と言われ始めたのはちょうど高校3年の春。このブームによってドラマ、音楽だけでなく韓国の現状や歴史などを取り扱ったテレビ番組

がいくつか放送された。この頃の私は、高校3年だというのに進路が決まらず、毎日憂鬱な日々を過ごしていた。そこで、隣の国ということもあり韓国の歴史に興味があったので、番組を見ることにした。しかし、それはあまりにも衝撃的だった。

現在、日本と韓国の間で歴史教科書問題が長く続いている。そのオブラートに包まれた部分が多く露出されている。日本はこんなにも残酷なことを韓国にしたのかとその事実を初めて知った。街角で韓国人に日本や日本人に対するイメージをインタビューする場面があった。年配の人はもちろん、私と同じ年代の人たちもしつかり日韓の歴史を知り、それに対してどう考えているのかを発言しているのに驚いた。おそらく日本人のそれらの年代に同じことを質問しても、あのようなしつかりとした発言はできないだろうであった。この番組を見て、とても「韓国」という国に興味を持った。将来は韓国と関係する職業につきたい、おぼろげながらもそう思うようになったのである。

なぜ、だからといって「日本語教員」を選んだか。それは、日本語を教えるながら、日本について自分のことばで伝えたい。少しでも好きになつて欲しいと思ったからである。大学に入学して、さっそく日本語を教える機会ができた。「フレンドリーあんず」

というボランティア団体があり、その会員になったのである。ここは日本語教室以外にも様々な活動をしている。日本語教室には様々な国の人々が日本語を学びに熱心に通っている。教えることは決して簡単なことではない。入念な準備も必要だし、度胸も必要である。しかし、毎回多くのことを学べるので、今でも休まず通っている。

そうやって、自分にできることをひとつずつでいいから実行し、将来に役立てていきたい。これからは積み重ねることなく、互いに手をとりあつて暮らしていくことが日本と韓国にとって良いことだと思う。そう考える人が何人、何十人、何百人と増えていけば、きっと良い関係が築けるであろう。そうした世の中になるように、努めていきたい。それが私の将来設計である。

大学1年生の時、ICファクトリーのユイマールの経営に関わり、経営の大変さを学ぶ。自営業は、店舗位置、客層、商品の仕入れ、商品の売り

Cさんの場合

美術館勤務

その後個展

が開ける喫

茶店を経営

方、経営戦略を考えることになる。日立市からの協力をうけ常陸多賀駅近隣でユイマールを営業するが、経営はなかなかうまくいかない。新たな経営の方針を立てることを決める(ここまでが現実)。

大学2年生の時、ユイマールに新たな試みを始める。コンピュータの導入によりインターネットを導入する。パソコン教室を開設、近隣に住む高齢者向けにパソコンを教える。

内容はインターネットの使い方、ワードの使い方、エクセルの使い方、筆まめやぐらめなどによるハガキの作り方、メールの使い方などを教える。このパソコン教室の開設によって高齢者の集まりの場となる。大学1年生の時よりは売り上げが上がる。

夏休みの間にインターネットショップを作る。コンピュータ関連の中小会社などで一、二週間ほどの研修をする。新聞社で一、二週間ほどの研修をする。出版会社で一、二週間ほどの研修をする。

大学3年生の時、ユイマールのメンバーが1年生、2年も加わり人数も多くなり、パソコン教室も教える先生が増え、生徒も充実してくる。インターネットでの奥久慈紅茶の宣伝によって少しずつ知名度が上がる。インターネット販売により全国の紅茶に興味のある人からの注文によりユイマールの経営も安定してくる。この時ユイマールの経営から手をひく。

学芸員の資格を取るために

美術館・博物館の研修をする。シス・アドの資格もとる。就職先を美術館もしくは博物館に決める。4年生の時、卒業論文を書く。

大学卒業する。就職先の美術館もしくは博物館で働く。インターネットの宣伝や経営に関わる。美術館や博物館で働き貯金をする。海外で、もう一度美術の勉強をするために貯金をする。お金が貯まった時点で(30代頃)海外留学をする。

一、二年後に日本に帰国する。日本での大学の勉強と海外での勉強を生かし、個展を開けるような喫茶店の経営を考える。知り合いや友達に共同経営を持ちかける。個人で資金を持ち寄り、喫茶店を開業。

喫茶店には、最初は美大生の個展や、まだ売れない美術家などの個展を開く。経営は大学のユイマールでの経験を生かすが、まだ安定はしない。二年後にインターネットや地道な宣伝により客も増え経営は安定する。少しずつではあるが有名な美術家なども喫茶店で個展を開くようになる。

皆さんの思い描いている職業はなんですか? 将来のイメージを持っている人は、自分自身のスキルをもっと磨いて将来の選択肢範囲をひろげてみてください。まだ見つからない人は、興味があることや知りたいこと、どんな些細なことでも積極的に挑戦してみてください。(土田奈保子)

大学1年生の時、ICファクトリーのユイマールの経営に関わり、経営の大変さを学ぶ。自営業は、店舗位置、客層、商品の仕入れ、商品の売り